

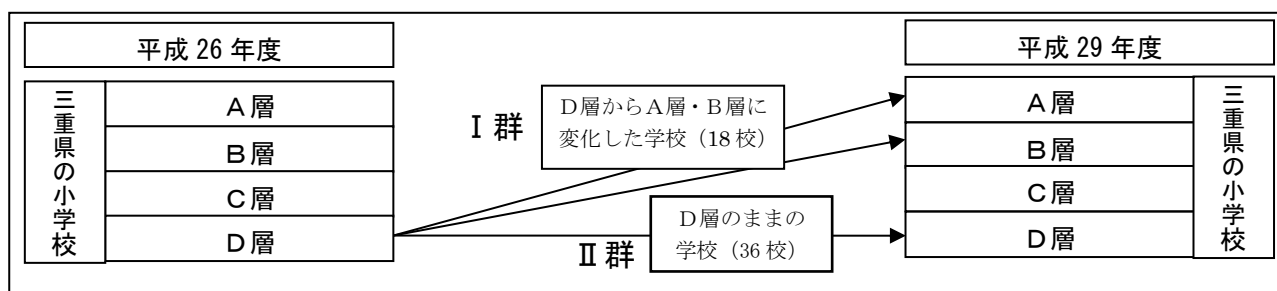
## 第4章 県内の取組

### 1 課題の改善が見られた学校の効果的な取組

平成26年度と平成29年度を比較して、課題の改善が見られた学校と、課題の改善が難しかった学校との学校質問紙の肯定的な回答を比較しました。

#### 小学校

「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善を図った授業等の取組は、効果が大きいと考えられます。



分析は、I群とII群の肯定的な回答率の差から比較します。下の表は、太枠で囲った列の値が大きい順に並べています。

順	改善が見られた学校で、改善が難しかった学校より取り組まれている活動	
1	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている (17)	+41.7%
2	自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている (15)	+36.1%
3	自ら学級やグループで課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた (41)	+33.3%
4	自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表ができている (19)	+25.0%
4	図書館資料を活用した授業を計画的に行った (22)	+25.0%
4	自ら課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている (103)	+25.0%
7	児童は礼儀正しい (14)	+22.2%
7	学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている (16)	+22.2%

※( )は質問紙番号を表しています。

#### 分析結果

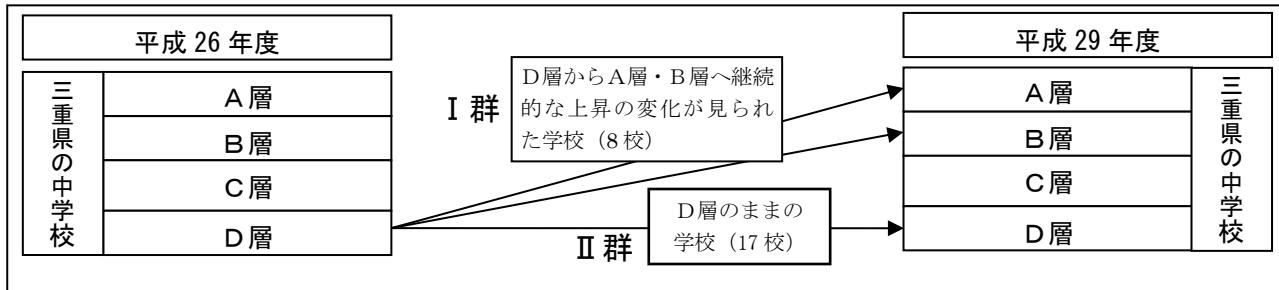
本年度の「I群」に属する学校の取組として、新学習指導要領の基本方針「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善に関する取組状況や学習評価の在り方についての項目が多くなっています。(15)(16)(17)(19)(41)

また、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導を進めるにあたって、教職員の資質能力向上の取組や、各授業における資料等の活用も高まっていることによる結果だと考えられます。(22)(103)

上記項目の取組内容や児童の姿勢は、児童の主体的な学習の実現に向けて取り組む優先事項の設定の参考になります。自校の状況や児童の状況に応じて取組の内容を選択し、年間を通じて組織的・継続的に取り組むことが大切です。

中学校

昨年度に引き続き、数学で習熟の遅いグループや習熟の早いグループへの少人数による指導、休日を利用した補足的な学習サポートの実施等の取組は効果が大きいと考えられます。



分析は、I群とII群の肯定的な回答率の差から比較します。下の表は、太枠で囲った列の値が大きい順に並べています。

順	改善が見られた学校で、改善が難しかった学校より取り組まれている活動	
1	自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表ができています (19)	+52.2%
2	教科や朝の会などで、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った (50)	+35.3%
3	自ら課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている (101)	+34.6%
4	自分の考えを相手にしっかりと伝えることができています (15)	+28.7%
4	自ら学級やグループで課題を設定し、話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた (41)	+28.7%
6	長期休業日を利用した補足的な学習のサポートを実施した (25)	+26.5%
7	学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができています (16)	+23.5%
7	指導計画の作成で、横断的な視点で、その目標達成に必要な教育内容を組織的に配列している (28)	+23.5%
7	地域や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を設定した (83)	+23.5%
7	教員は、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加している (100)	+23.5%
11	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができています (17)	+22.8%
11	指導計画の作成で、必要な人的・物的資源等を、外部の資源を含めて活用しながら組み合わせている (31)	+22.8%

※( )は質問紙番号を表しています。

分析結果

本年度改善が見られた学校で、より取り組まれている活動のうち、平成28年度の分析と重なりがあった取組は、長期休業日を利用した補足的な学習サポートの実施でした。

平成28年度の分析結果と比較すると、新学習指導要領の基本方針「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善に関する取組状況や学習評価の在り方についての項目が多くなっています。

(15) (16) (17) (19) (41)

また、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導を進めるにあたって、教職員の資質能力向上の取組や、外部(地域)の資源活用の取組も高まっていることによる結果だと考えられます。(31) (83) (100) (101)

2 三重県と全国を取組の比較

学校質問紙の回答と平均正答率との間に、全国では関連が見られるが、本県ではほとんど見られない項目を取り上げました。

これらは全国の結果からわかるように、学力の向上に有効な取組となっています。その取組を進める意義を再確認するとともに、各学校において行われている取組内容・方法を見直し、改善を図っていく必要があります。

小学校

「話し合う活動」については、活動のねらい・目的を明確にし、効果的に取り入れていくよう改善が必要です。

「目標（めあて・ねらい）の提示」については、「何を学ぶのか」「何を考えていくのか」を「問いの形」で提示することや、提示のタイミングを工夫することで、子どもに思考の見通しを持たせることが重要です。

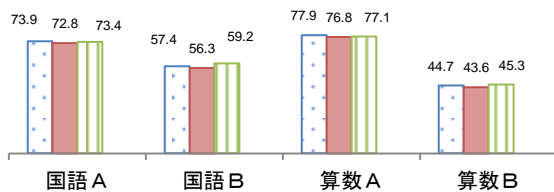
「家庭学習の与え方」については、学校全体で組織的に取り組む中で、どのようなことを共通理解して取り組んでいくのか、取組内容に改善が必要です。

ここに上げた項目以外にも、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導に関わる項目が複数挙がっています。

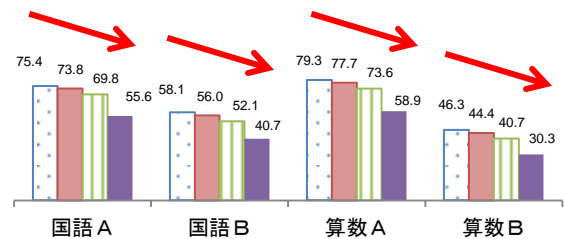
よく行った      どちらかといえば、行った      あまり行っていない      全く行っていない

【学校質問紙】(39) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか

【三重県】

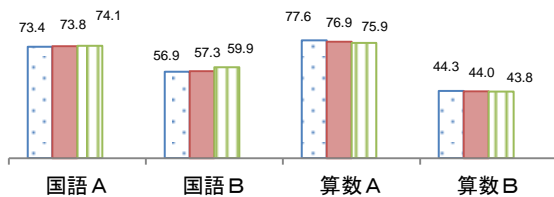


【全国】

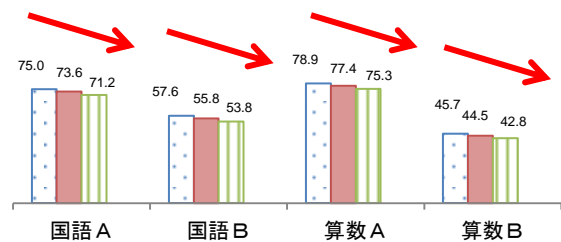


【学校質問紙】(33) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか

【三重県】

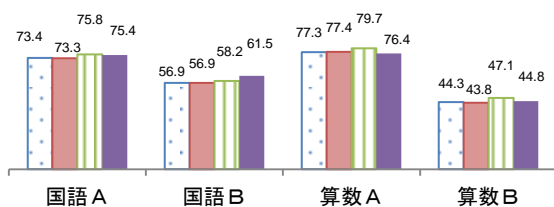


【全国】

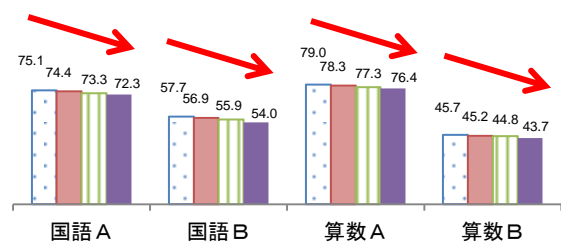


【学校質問紙】(95) 調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか

【三重県】



【全国】



中学校

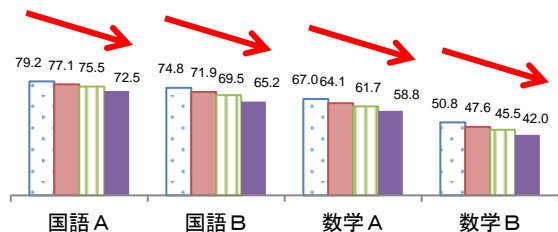
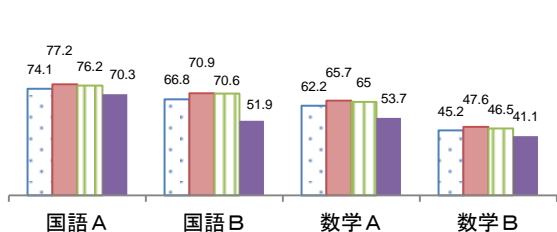
「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導に関わる項目が多く挙がっています。  
 調べたことをまとめ、発表する活動を取り入れた授業展開への取組が進んでいる一方で、活動内容や生徒へのフィードバックの方法などに課題があると考えられます。研修などをとおして、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善を図る必要があります。

よく行った      どちらかといえば、行った      あまり行っていない      全く行っていない

【学校質問紙】(43) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか

【三重県】

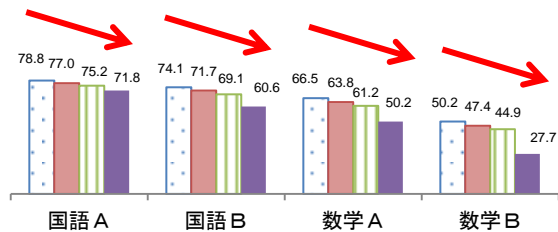
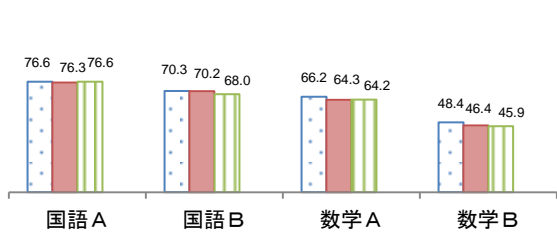
【全国】



【学校質問紙】(36) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

【三重県】

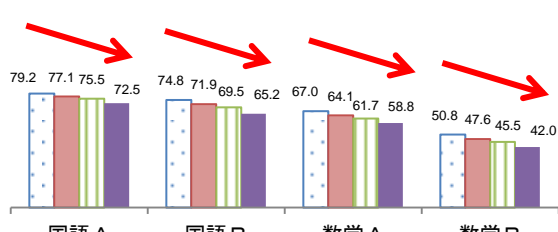
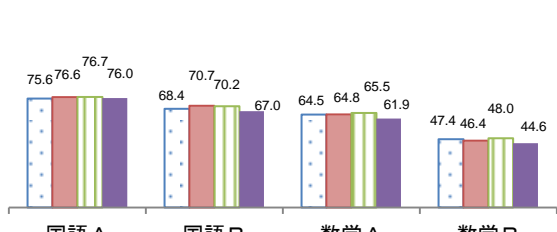
【全国】



【学校質問紙】(94) 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか

【三重県】

【全国】



### 家庭学習習慣・読書習慣の定着が見られる学校の取組

児童質問紙調査の結果において、「平日1時間以上学習する」「休日1時間以上学習する」「平日10分以上読書する」と回答した児童の割合が高い小学校の、生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立を図る取組事例を紹介します。

#### 生活習慣の確立をめざした取組

- メディアによらず家庭で過ごす「ノーメディアデー」を設定する。(月1回、「0」のつく平日等)
- 生活習慣・読書習慣チェックシートの活用例
  - ・高学年の家庭科の単元に位置づけた生活リズムの見直しや、家族の一員としての自分の役割や仕事分担をフィードバックさせる。
  - ・生活指導の場や道徳、総合的な学習の時間、生活、保健等の学習と重ねて指導する。
  - ・児童集会で、図書委員会や生活委員会等による発表を実施する。
  - ・夏季休業中に継続してチェックを実施する。

#### 学習習慣の確立をめざした取組

- 低学年・高学年、または、低学年・中学年・高学年の発達段階に応じた「家庭学習の手引き」による家庭への呼びかけを行う。
- 自主学習の内容や仕方等を示した「学習の手引き」を4月に家庭に配付し、高学年での自主学習の実施を推進することで、小学校から中学校への主体的な学習習慣の確立につなげる。
- 自主学習実施の定着を図るため、教科に偏らず、児童の興味・関心がある教科で行うことや、学級通信で好事例を掲載するなど、児童にやる気を出させる働きかけをする。
- 「学年×15分」の家庭学習の時間を基本として実施を促す。
- 毎日の宿題を実施する。全学年、間違えたところはその日のうちにチェックし、その日のうちに正しく直して再提出をさせる。最後まで取り組むことを習慣化させる。

#### 補充学習の効果的な取組

- 学習ボランティアによる算数科に特化した「学びの時間」を設定する。平日に10回(木曜日5・6限目)、長期休業期間に4回、学年の学習内容や個に応じた「活用に関する問題」を提示し、問題の解法を学習ボランティアに伝えることにより、表現力の育成につなげる。
- 掃除と5限目の間の15分間にプリント学習を行う。(5限目の授業が落ち着いた・集中した雰囲気での実施が可能となる。)
- 第4学年以上に対して、月1回(年間8回)、火曜日の6限目に補充学習を行う。基礎基本の定着を図るため、地域ボランティア(各学年3名)による基本的な問題の復習を行う。

#### 読書習慣の確立をめざした取組

- 家庭での読書を推進するため、「家読(うちどく)」を設定し、家庭で一緒に読書をする時間を持つたり、児童と保護者がお互いに読み聞かせをしあったり、読んだ本の感想を伝え合ったりする。
- ボランティアによる「図書の時間」を月曜日に設定し、読書の良さを児童に伝える。
- ボランティアによる読み聞かせを年間通して計画的に行う。
- 年度当初に年間の図書室の本の貸し出し冊数の目標値を設定(H29:35冊/年)し、学期ごとにその進捗状況を提示し、読書習慣の定着とともに図書室の利用を促進する。
- 朝の読書の時間のうち、終わりの5分間で、全学級、全員で音読を行う。

4 学校の取組事例

JSL カリキュラムを活用したどの子にもわかる授業づくり

いなべ市立阿下喜小学校

課題 日本語指導と教科指導の一体化

現在、外国につながる児童が全体の約15%在籍しています。在籍児童の多くはある程度の会話ができるため、日常の学校生活で大きく困ることは少ないのですが、学習言語の習得が十分ではないため、授業内容を理解することは困難です。外国につながる児童だけでなく、どの子にもわかる授業をとおして自尊感情を育み、学級集団を高め、意欲的・主体的に学ぶ子の育成を図ることをねらいとして取組を進めています。

取組① 安心して学べる学級集団づくり

●学習規律の確立

- ・休み時間に次の授業の準備をする。
- ・オンタイムで授業を始める。
- ・仲間や先生の話は、顔を見て最後まで聞く。
- ・指名されたら、「はい」と返事をする。
- ・相手に伝わる声で、「です」「ます」を付けて、最後まで話す。

「明確と統一」を合言葉に、全教職員が統一した指導を大切にしています。守っていない子には必ず声をかけ、教職員の指導に違いが出てきた場合は、声をかけ合い、その都度、全体で指導の確認を行っています。

また、集団生活を送る上で、マナーとしてのルールを大切に、「なぜそのルールがあるのか」理由とともに児童に指導しています。

取組② どの子にもわかる授業づくり

●JSL カリキュラムを活用した授業づくり

阿下喜小学校版 JSL10 のポイント

①「教科の目標」と「日本語の目標」を設定する

- 日本語の目標 (ア) 本時の教科語彙(新出語や難語)の意味がわかる  
 (イ) ある表現方法を習得して、自分の意見や思考過程を話す/書くことができる  
 (ウ) 語彙を増やす(表現力を育てる)

例)「教科の目標」 ものさしを使って、cm、mmが何個分か数えて、長さを図ることができる。

「日本語の目標(イ)」 ・1 cmが□個分で、○cmです。

・1 mmが□個分で、○mmです。

・1 cmが□個分と、1 mmが△個分で、□cm△mmです。 を使って表現できる。

※文型や表現を学ぶ機会を多く設定することで、自分の考えがうまく伝わるように工夫して話したり書いたりすることにつながります。

②「ターゲットセンテンス(思考の手がかりとなる表現)」を設定し活用する

③スモールステップで授業を進める 課題設定→問題提示→自力解決→学び合い→まとめ→ふりかえり

④視覚教材を工夫する ⑤板書を工夫する(ワークシートと板書の一致)

⑥ワークシートを作成する(課題、問題、答え、まとめがセットになっているもの)

⑦わかりやすく丁寧な日本語を使う ⑧復習や確かめで学習の定着を図る

⑨集中力を高める工夫をする(見通しを持たせる) ⑩学習規律を確立する

阿下喜小学校版5つの支援

I 理解支援(視覚支援): 新出の単語や文章の意味が理解できるように例示したり、学習内容の要点が理解できるように重要な箇所を強調したり、実物、模型、絵、写真、図などを使って、具体的なイメージが持てるようにするなどの支援。

II 表現支援: 表現のひな形を示し、順序立てて話したり、書いたりできるための支援。

III 記憶支援: 重要な言葉や学習内容について、授業中に教職員が繰り返し言ったり、それを使った活動を繰り返し児童にさせたりして、記憶を促す支援。

IV 自立支援: 自分の学習を管理して学習を進める力を育むための支援。

V 情意支援: 自信や意欲を持って学習が進められる環境を作ったり、意欲的に授業に参加できるよう、授業の流れや発問を工夫する支援。

成果 学力の向上

学習規律を確立することで授業に集中できる子どもが増えました。また、JSL カリキュラムを活用した授業づくりに取り組み始めてから授業改革の方向性が定まり、日常の授業に反映されるようになりました。毎年行っているNRT 学力調査の結果は学年が上がるにつれ徐々に向上してきています。外国につながる児童を含め、全ての児童が自分の考えを持ち、仲間と共に、心豊かにたくましく生きていくことを願い教育活動を継続していきます。

# 自分の考えを確かめ、伝え、つながり、高め合う授業づくり

～基礎学力の定着と活用する力の向上をめざして～

津市立安濃小学校

## 課題 基礎学力の定着と考えを組み立てる力の育成

- (ア) 基礎学力の定着を図るために学習規律の確立や朝学習の充実など今までの取組を進めること  
 (イ) 家庭での学習時間をのばす取組を行うこと  
 (ウ) 考えを組み立てる力を伸ばすために興味関心や達成感を高める支援を行うこと

### 取組① 落ち着いた学ぶことのできる学習環境づくり

- (ア) 全学年が共通理解をもち、学習規律の確立とルールの徹底

- ・チャイム着席・授業開始の徹底とともに子どもが学習範囲を音読するなど自主的に学習をスタートさせる習慣を付ける。
- ・教科書などの準備ができれば、今日の学習範囲を音読するなど、授業初めの活動を提示する。
- ・机上は学習に必要な物だけとして授業に集中する。
- ・授業の始まりと終わりを意識し、気持ちを切り替えて授業に臨ませる。

### 取組② 基礎学力の定着（あのうっ子タイムとチャレンジ学習）

- (ア) あのうっ子タイム(10分間の取組)

- ・週2回（火・木）の朝学習で既習内容についての復習プリントを行い、学習内容の定着を図っています。学習の進捗や子どもの実態に合わせた問題を教員が作成することで、一人ひとりに対応した支援ができます。また、地域のボランティアの方が読書（月・水・金）の時間に読み聞かせを日程を決めて実施しています。
- ・各学期に1回、朝学習の復習プリントから問題を集めたテスト（計算・文章題を含んだ20問）を行い、結果を分析し、定着状況の把握と今後の対策に生かしています。その結果、理解が十分でなかった問題については、年間を通じて問題作りの際に意図的に取り入れることや放課後の補充学習で習熟を図ることで、つまづきが少なくなり理解につながっています。

- (イ) チャレンジ学習（自主勉強として復習）

- ・宿題の意味を理解させ、教員がチェックして間違った問題をきちんと直す習慣をつけることで基礎学力・学習習慣の定着につなげています。基礎学力の定着は、学校の授業だけでなく、毎日の家庭学習による積み重ねが大きい「家庭学習の手引き」を家庭に配布し、協力を呼びかけています。

### 取組③ 児童の興味関心を高める取組

- (ウ) 教材の提示の仕方やわかる喜びを支援する教具の工夫・開発
- ・学習活動の中に具体物を用いた活動の場面を盛り込み、わかる喜びや学習内容の理解につなげています。
  - ・具体物を用いた活動や教具を使って数量の関係や計算の仕組みをイメージしてつかむことは、子どもたちが自分の力で問題を読み解こうとする思考の手助けになっています。
  - ・三重大学の中西教授に指導助言をいただき、より児童の理解を深める授業実践のあり方について研究を続けています。



かけわり器を使うことで  
計算の仕組みを理解・定着

### 取組④ 考えを組み立てる支援の取組

- (ウ) 「めあての提示」と「振り返る活動」、立式には単位をつけて式が表す意味を確認
- 低学年・・授業の始めに今日のめあてを声に出して読み、何について学習するか確認する。振り返る活動では、文章がなかなか書けないのでワークシートで類似問題や先生問題に取り組みせ、学習内容が習得できたかどうかを把握する。
- 中学年・・「めあて」を赤で囲み、学習を進める中で常に意識させたり、文章問題では、問われていること、分かっている数字などに印を付け、まとめの文のキーワードを穴埋めしたりする。
- 高学年・・キーワードを用いた文章表現をする。自分の考えをより明確に伝えるために算数用語をできるだけ使ってまとめる。

### 成果と課題 基礎学力の定着と活用する力の向上

算数科の授業公開では、教材研究・指導案検討や事後検討を行い、授業のねらいや指導方法などを全教職員で協議し、講師を招聘して専門的な知識を得ることで、お互いに高め合える環境作りに取り組むことができました。これからの課題として、子どもたちは、宿題などの与えられた課題や係活動・委員会活動など指示されたことに対して責任を持って行うだけでなく、自分できちんと計画立てて自主的に課題を見つけ、取り組んでいくために基礎学力の定着をもとに活用する力の向上を目指していきます。

# 聴き合い、学び合い、よく考えて行動する子どもの育成

紀宝町立井田小学校

## 課題 聴き合う関係を大切にしたい授業展開

井田小学校では、全ての子どもの学びを保障し、安心して心地よく学べる学校をめざして日々の授業や活動を行っています。授業においては、(教員主導の一斉授業型の形態ではなく)主体的・対話的で深い学びをめざし、子どもたちの聴き合う関係を大切にしたい授業を行っています。学校全体で授業の方向性を揃えて研修を進めてきたことにより成果も積み上がってきています。現在、「質の高い学び」や「聴き合う関係を基盤とした深い学び」の実現を求めて研修に励んでいるところです。

## 取組① 子どものつまずきを授業に活かす(分析をとおして)

夏休みに分析のための校内研修を設定し、全国学調やみえスタディ・チェックの自校採点結果をもとに、全教職員で授業実践に活かすことを視点を研修を行っています。分析したことをただ単に共有するのではなく、設問ごとに今教えている学年のどの学習内容と関連しているかを把握し、具体的な改善方を検討します。

種別	分析内容	授業改善への具体的とらえ
割合、適切な式を立て	示された条件を基に、適切な式を立てることができた。	
既知、数を変更した結果も同じ関係が成り立つことを図で表現できる	示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表現することができた。	(3)児童自らが数量の関係を見出し、見出した関係がほかの場合でも成り立つかどうかの予想や確かなかを友だちやグループのやり方を聴き合い、理解するなかで、自分で表現する力を身につけているよう活動を設定する。
二つの数量の関係をそのきまりを記述で	模範例がなく、文章化が難しいよう、なにかしらのきまりを見出すことができていたが、それを明確に表現することができていない。	
のために、示された数値を選び、その求	無回答がなく、どの子も考えて取り組んでいたことが分かる。計算途中で問題を終えていたり、計算関連でのミスが	何を求めているのか、数値がもっている意味、問題全体の意味をしっかりと理解し、問い読みが必要がある。

【8月】校内研修にて設問ごとの出題の趣旨を把握→分析→授業改善に向けた具体的な取組を検討

(支援事務所参加)

【9月】児童質問紙の結果を分析し、生活習慣・学習習慣の改善について検討

【9月以降】具体的な改善の取組みについて、校内研修の中で実践を交流

## 取組② 授業の質をあげるために(授業公開をとおして)

### ●授業参観の視点[子どもの学ぶ姿を出発点に置き、授業をみる力を高める]

- ・子どもの事実(誰一人孤立しない・排除されない、つまずき・困り感、安心・居場所感、身体性・退屈など)から、どんな学びがみられたか、どんな学びの可能性があったのか。
- ・教室の事実(授業展開と子どもの思いや思考の「ずれ」、 「聴くーつなぐー戻す」教員の力量・身体感覚、子どもとの関係性や教員の変容)はどうであったか。

### ●研究協議の視点[教室に起こっている事実を全教職員がみつめ、互いに学び合い、高め合う]

- ・子どもたちの様子や支援が必要な子どもへの具体的な対応はどうであったか。
- ・学級担任の困り感(授業の入り方や進め方、課題設定、子どもへの対応)について
- ・学校が目指す質の高い学び、聴き合う関係、どの子どもも試行錯誤する課題設定はどうであったか。

## 取組③ 家庭も学びの場に～進んで学ぶ子をめざして～

家庭学習のしおりを配付し、『学校と家庭とが「子どもの学び」をとおして協力し合うことが子どもたちの学ぶ力と身体を健康を育み、子どもたちは夢に向かって進んでいける』ことをメッセージとして呼びかけました。家庭学習が授業に戻っていくように、発達段階に合わせた「しっかり」「じっくり」「確実に」のコースを設定し、高学年までに「予定を立て計画的に学習する力をつける」ことを目標に取り組んでいます。また、その検証・検討を行い、家庭学習の充実を図っています。

	低学年	中学年	高学年
しっかり	【学習したことの復習や新出漢字の練習など基本的な学習】 □復習プリント □ドリル等の問題 □漢字の練習 □本読み(音読) □日記 等。		
じっくり	井田小学校では、 “授業進度” “理解度” “子どもの実態” “つけたい力” 等。 を踏まえ、家庭学習用の課題を出しています。		
確実に	【ジャンプ問題や記述式の課題など発展的な学習】 □良問・難問な課題(ジャンプ課題) □作文 □読書 □フーノート □学習のふりかえり 等。  【自主学習(自習)などの自己完結型の学習】 □学習課題の設定も含めた自己学習 ・学習する内容や課題を自分で決めて学習する。 □学習のまとめ方を自分で考える自己学習 ・学習課題は設定されているが、その課題解決の方法を自分で決め、学習する。		

## 成果 学びに向かう姿の変化

子どもたちの生活面、学習面において、個別には様々な課題はありますが、聴き合う関係を軸とした授業づくりにより、子ども同士でケアする関係性や信頼性が高まりつつあります。このことにより安心して学ぶ姿が見られると保護者からも声があがっています。また、どの子どもも試行錯誤できる課題を設定することで、試行錯誤することが当たり前になり、誰もが学ぼうとする姿勢につながっています。

## 今後 学びの足跡

昨年度から、授業公開や研究協議会、研修会で学んだことや感じたことを記録し、今後の自分たちの実践・学校の実践に活かしていく目的で冊子「学びの足跡」を作成しています。単に授業案を集めて綴じるといったものではなく、また、無理に体裁を整え、成果を書き留めたものでなく、正直に自分たちがやってきたことの「足跡」を残すものとして位置づけています。足跡を辿ることで、学校の歩む方向を予想したり修正を加えたりしながら、目の前の子どもたちの確かな学びの足跡につなげていきます。



## 数学科における習熟度別少人数指導の実践

～学習課題の工夫と追求する授業づくりをとおして～

大紀町立大宮中学校

### 課題 自尊感情を高め、生徒の持っている力を引き出すための授業とは

生徒は、書くことは得意としていますが、表現力に乏しく、人目を気にして自分の本音を出しにくい傾向があります。また、自尊感情が低いことから、結果だけでなく過程をほめて認めていくことを日々実践していますが、まだまだ生徒の持っている力を充分引き出し切れれていません。そこで、学習課題の工夫と追求する授業づくりをテーマに研修を進めています。

### 取組① 学習指導について

- ・授業実践のプロとしての意識を持ち授業改善に取り組む
- ・きめ細かなゆきとどいた指導を行うために少人数（TT・習熟度別編成）授業を実施
- ・本時の目標（めあて・ねらい）の提示と振り返る活動を工夫
- ・家庭学習を習慣化させるための課題提示と読書活動の充実
- ・特別支援学級では、協力学級と連携し、指導計画・支援計画に基づき全教職員で指導や支援を行う

### 取組② 少人数指導について（2年生習熟度別）

#### ●のびのびコース<発展>20人

考えること（わかることの繰り返し）をとおし、生徒に満足感を感じさせながら授業を進めています。授業中に「わかった」と納得したときの生徒の表情を大切に、できた喜びと未知の問題に果敢に挑戦していける力をつけていきます。

#### <具体的な事例・一次関数のグラフのかき方>

教員が大切にしたいこと⇒生徒に考えさせながら進めること

グラフのかき方だけを押さえる授業に終始せず、一次関数のグラフをどのようにすればかけるかをペアやグループ学習で意見交流する中で、いろんな考え方に触れさせ、生徒に見方や考え方の広がりを持たせます。生徒が気づいた「2点がわかればかける」ことや、対応表の増加量を利用することなど、生徒が自力で課題を解決した考え方を他の生徒が聞き、「ほおー」と納得した言葉が出たときの喜びを教室中で共感します。

#### ●じっくりコース<基礎>11人

1つ1つできることを繰り返し、「できるかもしれない」「やってみるとそうでもない」「できた」という生徒の姿を大切に、絶えず数学を身近に感じさせながら、丁寧にゆっくりと授業を進めていき、できることを中心に据えて、問題解決していく力をつけていきます。

#### <具体的な事例・一次関数のグラフのかき方>

教員が大切にしたいこと⇒教壇に立って感じる「聞いている」「分かっている」ときの生徒の表情

できることの繰り返しを大切に、スモールステップ学習を進めます。まず、切片の取り方を学習し、傾きが正の分数の時のグラフのかき方を学習した後、練習問題で定着させます。次に、この内容を負の分数、正の整数、負の整数と繰り返しながら、最後にすべての問題で定着させます。これらのステップで一次関数のグラフをかいた時の式の見方（見る部分）を習得しグラフがかけるようになります。

難しいと感じる問題に対しても、その問題にあった見方や考え方ができれば解けるのではないかと思います。「やってみよう」と意欲的になります。また、どんな方法で解決できたのかを確認し、その核心に迫ろうとする姿につなげます。

### 成果 これまでの実践から見てきたこと

以前の一斉授業では、じっくりコースの生徒はうつむきがちでした。「わからない」「できない」ことの連鎖は、数学が嫌いな生徒を増やしているだけであったのかもしれませんが。「生徒全員に数学は楽しいと感じさせたい」という思いで、習熟度別をスタートし、今では授業で「わからなかった数学が、きっとわかるようになる」といった「わかりたい気持ちが生徒にはある」ことを再認識できました。

これからも学び合い、高め合いながら、ただ生徒が自分の意見を言うだけでなく、教員が反応を返し、生徒が意欲的に取り組めるような課題の表現を考えていくことを大切にして実践を進めていきます。

## 言語活動を意識した授業づくり

伊賀市立柘植中学校

## 課題 リテラシーの側面から学力向上を目指す

柘植中学校では、「なかまづくり・学級集団づくり」を土台に、「エンパワメント」「リテラシー」「キャリアデザイン」の3つの側面から統合的な力をつけていくことを目指して取組を進めてきました。しかし、学力向上と関わりの強いリテラシーの側面、基礎的なことからの定着や家庭学習に課題がみられます。これらの課題を克服するため、言語活動を重視しながら、授業ミニマムの見直しや授業のタイムマネジメントの質の向上について日々研修と実践を行っています。

## 取組 ① 言語活動の充実

## ●全ての教職員が統一された意識で取り組む

- ・教職員の移動がある年度初めに、これまで研修の中で大事にしてきた「言語活動を意識する」とはどのようなことか、言語活動を重視した授業づくりについて確認する研修時間を設けています。
- ・全教員が年に1回教科の授業公開を行い、授業反省会でアドバイザーや外部講師から助言をいただいています。その際、それぞれの教科での気づきを、自分の教科に照らしてどう取り入れるか考えるようにしています。

## ●リテラシーの4観点を意識した授業づくり

- ①文章やグラフや資料などの情報を読み取り、整理する力をつける。(読む)
- ②伝えたいことを、根拠を明確にし、筋道を立てて書く力をつける。(書く)
- ③話し手の意図を考えて聞き取る力をつける。(聞く)
- ④図を使ったり聞き手の反応を見たりしながら、自分の考えを伝える力をつける。(話す)

4つの力をつけるため、より具体的な目標を立てて普段の授業づくりに生かすとともに、人権教育カリキュラムに反映するようにしました。

## 柘植中学校 1年生 人権教育カリキュラム

## リテラシーの力 教科の学力を高め、情報を正しく活用し、確かな判断力をもとに問題を解決していく力

- 【国語】「レポート 調べたことを整理して、分かりやすく」調べた情報を整理してレポートを書くことで、図表や文章をまとめ、効果的に相手に伝える力をつける。
- 【社会「北アメリカの農業」】～北アメリカの農業の特徴は何か～ 北アメリカの農業について、文章やグラフや資料などの情報から読み取り、自然環境と比較しながら整理する力をつける。
- 【数学】「反比例を利用して身近な問題を考えよう」数量関係を表や式にあらわすことで、反比例の関係であることを定義に基づいて説明する力をつける。
- 【理科】「力の大きさとばねのひき」力の大きさとばねのひきの関係が疎べる実験を通して、誤差を考えてデータをまとめる力をつける。
- 【音楽】「仲間とともに、明るい歌声を響かせよう」曲の内容を感じ取りながら声を合わせる喜びを感じ、明るく声でしっかり歌いあげることができる力をつける。
- 【体育】「マント運動」自己の動きを分析することを通して、情報を整理する力をつける。
- 【英語】「一年の思い出・過去形」ある日の出来事を自分自身の「挿しペーパーン」で表現できる力をつける。
- 【学力の充実】 学力補充(スタディ・プロジェクト)、家庭学習ノート、家庭学習強調月間、朝の読書、「がんばりま表」

## 取組 ② 補充学習

## ●地域と連携した補充学習

生徒の学力向上を目指し、いがまち人権センターと連携しながら、火・金の週2回、夜間に学習会を行っています。講師は主にセンター職員と地域の方で、教員も関わっています。教科の学習だけでなく、学校では見過ごされがちな社会のマナーなどを指導してもらう良い機会にもなっています。

## ●「スタディプロジェクト」の取組

月曜日の放課後 30 分及び長期休業中に、希望した生徒や教員から参加を促された生徒を対象に補充学習を行っています。学習教材は自分で準備して取り組むことを基本としていますが、生徒の実態に応じて、教員が個々の能力に合わせたプリント等を準備することもあります。宿題を出して「やっておきなさい」では自分で取り組むことが難しい生徒への家庭学習習慣の定着支援としても有効だと考えます。

土曜授業では、学-Viva!!セットや全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの過去問等に取り組み、問題の答え方や問題に対する考え方を学ばせました。

## 成果 考える力の向上

講師を招へいした授業研究を全教員が行い協議することで、「学校全体で目指すこと」と「一人ひとりの教員が工夫すること」の重なりが見えやすくなりました。また、50分の授業計画をきちんと立てることで、毎時間確実に振り返る活動をさせることができました。

1学期の学校評価アンケートでは、「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会が多い」「毎日の家庭学習で決められた時間を達成できた」と答えた生徒の割合が昨年度同時期よりそれぞれ4.4ポイント、2.5ポイント上昇しています。

「考える力」はついてきましたが、「伝える力」がまだまだ弱いため、伝えたい思いを表現する力、あるいは、自分から発信していく自主性を伸ばしていくことが今後の課題です。